

もっとスポーツの価値、可能性を広げたい

たくさんの子ども達の人生を豊かにするために

青年海外協力隊

平成28年度2次隊

派遣国 ニカラグア

職種 野球

阿部翔太

(桜美林大学健康福祉学群健康科学専修 2014年3月卒業、野球部所属)

～小学校から大学まで野球漬けだった人生からブライダルの道へ。そこで気づいた人の人生に関わる大切さ。気づいた時に思い出したのが野球に打ち込んでいた日々。常に感情の中にいた時間、その時間が私にとって大切に本当の私であったと思う。その野球にもう一度関わりたい。そしてたくさんの子ども達の人生に関わりたい、それが国境を越えても。それが青年海外協力隊に応募するきっかけになりました～

<大学時代>

甲子園出場、大会優勝、タイトル獲得など野球人生で目立つ活躍はできなかったものの、野球から人生を強く前へ進める力を学びました。たくさんの指導者に恵まれ、技術はもちろんの事、人生を通して野球が大好きになることができ

ました。

その中でも大学野球は自分の人生を大きく変えるきっかけになったと思います。

私が入部した当初は首都大学野球連盟 2 部でしたが、有名な高校の選手が集まってすでに同じ 1 年生で試合に出ている仲間もいました。私は 2 年生までは試合に出れるような選手ではありませんでしたが、たくさんの先輩方の練習の真似や、学生コーチ、監督さんのアドバイスをもとに練習を続けました。そして、2 年生の後半からオープン戦（練習試合）に出ることができるようになりました。桜美林大学野球部のスタッフの方々は選手一人一人をしっかりと観察しチャンス タイムリーに与えていたと思います。練習をすれば結果になるとは限らないのですが、無駄ではありません、やった分だけ自信に繋がると思えます。結果が出なかった時には練習が足りなかった、やり方が違うのではないかと、仲間やスタッフに相談しながら練習を続けてきました。そんな恵まれた環境もあり、4 年生の春にレギュラーを掴むことができました。4 年春では 1 部との入れ替え戦まで進むことができたものの教育実習期間と被ってしまい出場することができませんでした。自分の選択がよかったかはわかりませんがこの時にスタッフの方々は私の将来の話も聞いてくれ、自分にとって納得のできる

選択をすることができました。そして4年の秋に就職活動をしながらリーグ戦に出場し、1部昇格を成し遂げることができました。

そして現在1部リーグで後輩たちが活躍をしてくれています。



<就職活動で大切にしたこと>

今まで野球漬けの人生を歩んできた私にとって就職活動は未知の世界でした。

野球は大学野球までで教員になると考えていた私はそのような道を進むと思っていました。この道は自分だけではなく両親の夢であり親孝行だと思っていました。各地で行なわれている就職説明会などに行ってみたところ魅力のある企業がたくさんあり、その中で心動かされたのがブライダル企業でした。一生に一度の結婚式に携わりたいと思いました。「人、成長、繋がり」が私のテーマになりました。



<祖母の死から>

ブライダル業界で働いている間に祖母から一通手紙を頂きました。

その内容は「自分のやりたいことをやってください。1日1日を大切に」

これだけの内容でした。その後間もなく祖母は亡くなりました。

この別れから自分の人生について深く考えるようになりました。もっと人の人生を豊かにするお手伝いはできないのか、自分だからこそできること、成長してもっともっと人の人生に関わりたい。教員を目指していた頃から子どもが大好きだったので子どものために何かがしたいと思った時に色んな先輩方に話をしました。そこで聞いたのが海外で野球を教えている人たちがいると聞きました。それが青年海外協力隊との出会いでした。もう一度野球に携わりたい、そんな気持ちが強くなり、思い切ってブライダル企業を退職し応募を決めました。

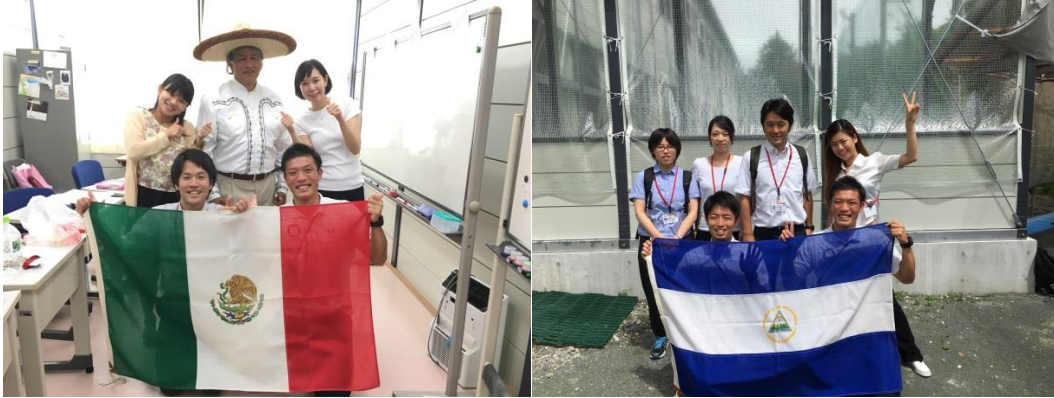
<青年海外協力隊>

青年海外協力隊には様々な職種があり、特に資格もなく応募できる職種もあります。1年に2度春と秋に募集があり、合格すると派遣前訓練を2ヶ月半受講し、技術支援が必要な国へ基本的に二年間派遣される仕組みです。私は1度体育教員の枠で野球を学校で教えたいと思い体育教員を選びましたが不合格でした。2度目の挑戦は職種を野球に変更し合格を頂きました。派遣前訓練を長野県駒ヶ根市の協力隊訓練所で受け2016年10月4日から2018年10月4日までニカラグア共和国へ派遣されます。

具体的な活動内容は、ニカラグアの少年選抜チーム指導、小学校でのベースボール型授業の実施となっています。

所属はニカラグア野球連盟に所属し、住む地域はニカラグアの首都であるマナグア市にある家庭でホームステイする予定です。





<活動への抱負>

活動では野球に限らず現地の方々に溶け込むために自分のできることを精一杯行いたいと思います。私はよそから来る外国人なので、ニカラグアの文化に慣れ、自分が現地の人たちに必要とされる存在になりたいと思います。

そして野球の指導では現地の子どもたちがもっと野球を上手になりたい、世界で活躍したい、野球が大好きだと心から感じてもらえる指導をしたいと思います。その中でも私が学んだ生きる力が身につくんだよということを少しずつ取り入れながら進めていきたいと思います。そしてスポーツで世界は繋がることができると感じてもらえる企画ができればなとも思っています。「野球って楽しいね」と思う子どもが一人でも増えることが目標です。

<帰国後の目標>

正直2年後の自分がどれだけ成長しているかなんてわかりません。

しかし、2年後にこうなりたいとイメージしていることはあります。それは2020年東京オリンピックがあり、野球の予選会場が私の出身地である福島県で行われることがほぼ確実になっています。その際に私は世界と日本、そして福島の子どもたちが繋がる架け橋になりたいと考えています。それが野球の可能性を広げることであり、スポーツの世界はこんなにも広いんだよ私の姿で子どもたちに影響を与えられることができるのではないかと考えています。

それが誰かの挑戦する一歩目、小さな一歩目になることが私の役割だと考えています。

また、日本では野球が十分にできる環境が整い、そして何事にも挑戦できる環境があると思います。それなのに簡単に小さなことを諦めたり、挑戦することを恐れてしまったりという姿が小さな子どもの頃から何気なくしてしまっている人が私も含めて多くいると思います。ニカラグアでは野球をやりたくてもできない子どもたちがたくさんいます、ボールをキャッチできただけで大喜びする子ども達の姿があります。私は技術支援に派遣されますが、ニカラグアの子

ども達から多くの事を学んでくると思います。

小さな喜び、小さな一歩が大きな喜びや世界へ繋がると信じてもいいのではないのでしょうか。

誰もが恐れる一歩目を後押しできる存在になりたいです。

全て野球から学んできたことです。

野球から学んだことをもっと外へ発信していく存在が一人でも増えればと思い

このような記事を書かせてもらいました。

野球に限らずスポーツには無限の可能性が世界に広がっています。

そんな世界を一緒に楽しみましょう！！！！